

# 史跡宇治川太閤堤跡 保存整備フォーラム2015

## 秀吉の時代 ～京都改造～

日時 平成27年2月11日(水・祝)

13:00~16:00(受付12時30分~)

場所 宇治市生涯学習センター 第1ホール

宇治市都市整備部

歴史まちづくり推進課



## プログラム

12:30 ~ 受付開始

13:00 ~ 小中学生文化財見学会表彰式

13:15 ~ 開催趣旨

宇治市歴史まちづくり推進課 杉本 宏

13:25 ~ 基調講演 「秀吉と京都・伏見」

京都市考古資料館 副館長 山本 雅和

14:55 ~ 休憩

15:10 ~ ディスカッション(最新成果報告を交えて)

「太閤堤跡の発掘調査成果」

宇治市歴史まちづくり推進課 上阪 航

「(仮称)史跡宇治川太閤堤跡歴史公園の整備」

宇治市歴史まちづくり推進課 大野 壽子

16:00 ~ 閉会



# 秀吉と京都・伏見

2015. 2. 11

京都市考古資料館 山本 雅和

## はじめに（図1・年表）

豊臣秀吉が、京都と伏見の二つの都市にこした大きな足跡を、発掘調査の成果から報告します。また、宇治とゆかりの深い出土した桃山茶陶についても紹介します。

### 1. 京都（図2）

#### ①聚楽第（図3）

##### ・沿革

豊臣秀吉が京都における拠点として造営した城郭

天正14年（1586）建造を着手、翌年に完成

天正16年（1588）後陽成天皇が聚楽第に行幸

天正19年（1591）豊臣秀次へ関白の地位とともに譲与、屋敷替えによる城下町の整備

文禄4年（1595）秀次の失脚・自刃にともない破却

##### ・城郭中枢部

内郭（本丸・北之丸・西之丸・南二之丸）・外郭を備えた大規模な平城

文献・絵画資料・地形・地名などから研究がすすめられる

本丸東堀・北之丸北堀・本丸南堀の発見

試掘・立会調査の集成による内郭堀跡の復元

##### ・武家屋敷

中枢部東側を中心に多数の武家屋敷が造営される

大規模な塀・堀や門跡などを検出

中立壳通沿いを中心に金箔瓦・家紋瓦が出土

#### ②御土居（図4）

##### ・沿革

豊臣秀吉が外的や洪水に備えて京都の周囲に築いた堀と土塁

天正19年（1591）1月に建造を着手、5月に完成

江戸時代以降、徐々に破壊がすすむ

現存する9箇所が国史跡に指定

##### ・概要

北は上賀茂から鷹峯、西は紙屋川から東寺西辺、南は九条、東は鴨川西岸を囲む

屈曲部分を含めた総延長は約22.5km

外側に堀、内側に掘削土を盛り上げた断面台形の土塁

主要街路に出入口（京の七口）

##### ・構造

堀跡の幅は12.5～20m・深さは1.5～2.5m、土塁の基底部幅は15～20m

堀底に方形の畝状の凹凸、湿地状の堆積

##### ・出土遺物

ゴミ捨て場となったため多量の遺物が出土

服飾具・調理具・食器・文房具・紡績具・楽器・遊具などの豊富な木製品

### ③公家町・寺町・天正地割

#### ・沿革

豊臣秀吉による「京都改造」にともなう施策

天正年間にすすめられる

#### ・公家町の形成

市街地（特に上京）に散在していた公家屋敷を内裏周辺に集める

街路の整備と家格による敷地設定

#### ・寺町の形成

市街地に散在していた寺院を寺町通・寺之内通沿いに集める

市街地外側の大規模な寺院（東寺・本願寺・本国寺など）は対象外

#### ・天正地割

既存の市街地である上京・下京の周辺地域を対象

平安京以来の南北街路の中間に新たな南北街路を設置

街区の形が正方形から南北に長い長方形に変化

街区内の敷地背割りにあたる位置に区画溝が設けられる

### ④方広寺（図5・図6）

#### ・沿革

豊臣秀吉が東山山麓に造営した大仏殿を中心とする巨大寺院

天正16年（1588）蓮華王院北側で方広寺の造営を開始

文禄5年（1596）閏7月13日の大地震により大仏が損壊

慶長7年（1602）大仏再建中に出火、焼失

慶長13年（1608）大仏および大仏殿の建立・造営を再開

慶長19年（1614）方広寺梵鐘鐘銘事件、翌年豊臣氏滅亡

#### ・概要

大仏は高さ六丈三尺（約19m）の木製金漆塗座像のちに鋳造金銅仏座像

西向きの大仏殿は高さ約49m、桁行約88m、梁行約54mの巨大な建物

境内は南北約260m、東西210m以上の規模

大仏殿西面・北面に巨大な石墨が現存

周辺に妙法院・祥雲寺・養源院などの寺院を造営

#### ・構造

平坦面を確保するため大規模な平坦面を造成

京都国立博物館敷地内で南面石墨・南門跡・南回廊跡を検出

南面石墨裾で大規模な鋳造遺構を発見

大仏殿基壇上面は花崗岩切石の四半敷、中央に多角形の台座

礎石据え付け穴は直径約4m・深さ約2m

#### ・出土遺物

石墨の裏込めに多数の石仏・五輪塔などの石造物

規格外の大きさの釘・鎚（かすがい）

巨大な鋳型の破片

## 2. 伏見（図7）

### ①指月城

#### ・沿革

豊臣秀吉が文禄元年（1592）に宇治川に臨む指月の岡に隠居屋敷を造営

文禄3年（1594）天守などを備えた本格的な城郭として拡張整備

文禄5年（1596）閏7月13日の大地震により建物が倒壊

#### ・城郭中枢部

南側は宇治川・東側は舟入により区画される

伏見区桃山鍋島町で北西角と推定できる石垣を発見

立売通は北堀跡を街路として整備

#### ・城下町

街路・街区の整備がすすめられたことが明らかとなる

### ②木幡山伏見城

#### ・沿革

豊臣秀吉が木幡山周辺の東西約3.3km・南北約2.2kmの範囲に造営した大規模な城郭

本丸・天守は最高所である現在の明治天皇陵の位置

秀吉没後は徳川氏の支配下におかれれる

慶長5年（1600）関ヶ原の合戦前哨戦で西軍の攻撃を受け落城 翌年再建

元和9年（1623）徳川家光の将軍宣下を最後に廃城・破却

#### ・城郭中枢部

大部分が桃山陵墓地に含まれる

地形図や古絵図から本丸・二の丸・松丸・名護屋丸などの配置が推定されている

発掘調査で出丸・堀、北堀石垣などが見つかる

#### ・武家屋敷

城郭周辺部を雑壇状に造成、多数の武家屋敷が造営される

豊後橋通より東側に東西約130m、南北約125mの方形区画の地割を施工

周囲は石垣・堀などで区画される

内部は分厚い整地が行なわれ、大型建物を含む複数の建物が配置される

京町通東側を中心に金箔瓦・家紋瓦が出土

#### ・町屋

城下町を南北方向に縦貫する京町通・両替町通を中心として集められる

南北方向に細長い長方形の街区に街路に面して小規模な建物が建ち並ぶ

街区の敷地背割りに当たる位置に段差が設けられる

城下町南部の立売通沿いでも町屋を検出

### ③城下町周辺の整備（図8）

#### ・城下町の周囲には惣構と呼ばれる土塁・切岸や空堀・水濠を構築

#### ・伏見港の整備

#### ・太閣堤の構築による宇治川・淀川の制御

#### ・宇治橋の撤去と豊後橋の架設

#### ・向島城の築城

### 3. 出土した桃山茶陶（図9）

#### ①出土地点

- ・武家屋敷・有力商人の邸宅
- ・三条通沿い（「せと物や町」）
- ・町屋域にも普及

#### ②産地

- ・備前・信楽などの焼締陶器の生産地
- ・瀬戸・美濃・唐津・高取などの施釉陶器の生産地
- ・京都
- ・中国・朝鮮・東南アジア

#### ③特徴

- ・意図的に歪めた器の出現
- ・たたら成形の発達
- ・胎土の使い分け
- ・絵付けの発達
- ・連房式登窯の導入

おわりに

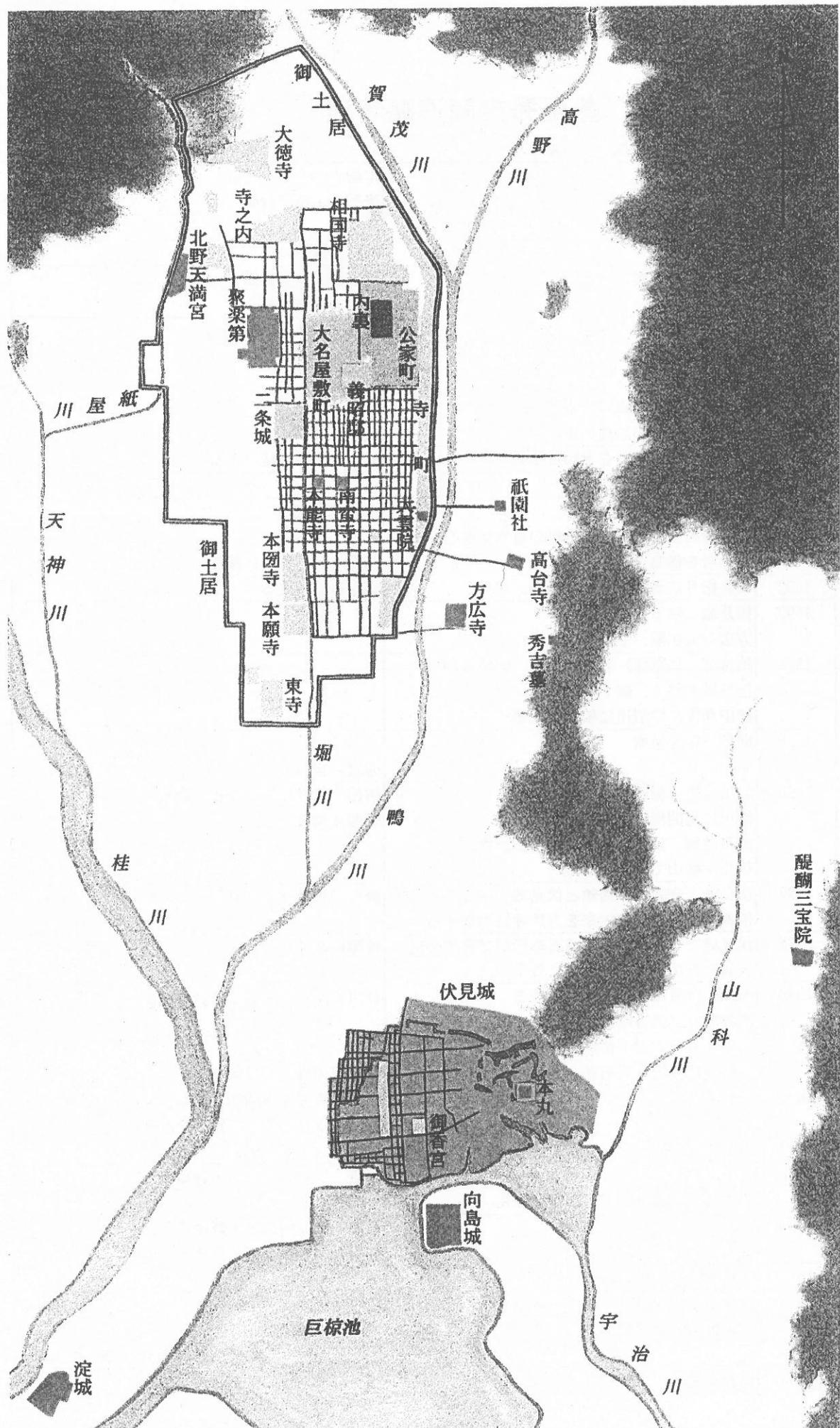


図1 関連遺跡位置図

## 豊臣秀吉関連略年表

年号	西暦	関連事項	出来事
天正10	1582		本能寺の変 光秀と山崎に合戦
天正11	1583	新宮の妙顯寺城に入る	
天正13	1585		閑白に就任
天正14	1586	聚楽第造営開始。	黄金の茶室を披露 太政大臣に就任。
天正15	1587	大政所・北政所らと大坂城より聚楽第へ移る	キリスト教を禁止 北野大茶会
天正16	1588	淀城築城のため人夫を徴発 後陽成天皇、聚楽第行幸 方広寺大仏殿の居礎の儀	
天正17	1589	淀城、築垣の礎石を大和に徴発	秀吉、天下を統一する
天正18	1590	聚楽第に茶会を催す	
天正19	1591	方広寺大仏殿、立柱 誓願寺を京極に移す、寺町の造営が進む 御土居を構築	千利休自害 閑白を甥の秀次に譲る
文禄元	1592	伏見指月に新屋敷の造営開始。	文禄の役始まる
文禄2	1593	指月城へ移る 方広寺大仏殿、上棟	
文禄3	1594	指月城（伏見城）拡張に着手、淀城破却。 指月城へ移る、城下町造営。 前田利家、宇治川に楨島堤を築く	
文禄4	1595	向島に桜を植樹 聚楽第破却	秀次自害
慶長元	1596	方広寺で千僧供養 淀川に太閤堤を築く 慶長地震、伏見城・方広寺大仏崩壊 伏見木幡山で伏見城築城	明使、伏見城にて秀吉と会見 26聖人殉教
慶長2	1597	伏見城天守完成、秀頼と伏見城へ移る 信濃善光寺阿弥陀如来を方広寺に勧請する	慶長の役始まる、耳塚供養
慶長3	1598	伏見城で死去、伏見城は五奉行が交替で護持 秀頼、方広寺大仏殿再建に着手	醍醐の花見
慶長4	1599	秀頼、伏見城より大坂城へ移る 阿弥陀峰に秀吉廟が創建	徳川家康、向島城から伏見城に入る
慶長5	1600	秀頼、方広寺で千僧供養、拡張工事に着手 西軍、伏見城を攻め落とす	関ヶ原の戦い、家康勝利
慶長6	1601		伏見城復旧工事開始、家康、大坂城より移る 家康、伏見に初めて銀座を設置
慶長7	1602	方広寺大仏殿炎上	家康、二条城を造営
慶長8	1603		家康、伏見城で征夷大將軍の宣下
慶長9	1604	豊国社にて秀吉七回忌の臨時祭礼	
慶長10	1605		家康、伏見城にて朝鮮使節と会見 徳川秀忠、伏見城で征夷大將軍の宣下
慶長15	1610	方広寺大仏地鎮祭	
慶長17	1612	大仏に金箔を押す、台座・敷石完成	幕府、キリスト教を禁止
慶長19	1614	大仏殿上棟・開眼供養の延期	大坂冬の陣
元和元	1615		大坂夏の陣、秀頼・淀君自害、豊臣死滅。
元和9	1623	伏見城破却、天守を二条城に移す	徳川家光、伏見城で征夷第將軍宣下

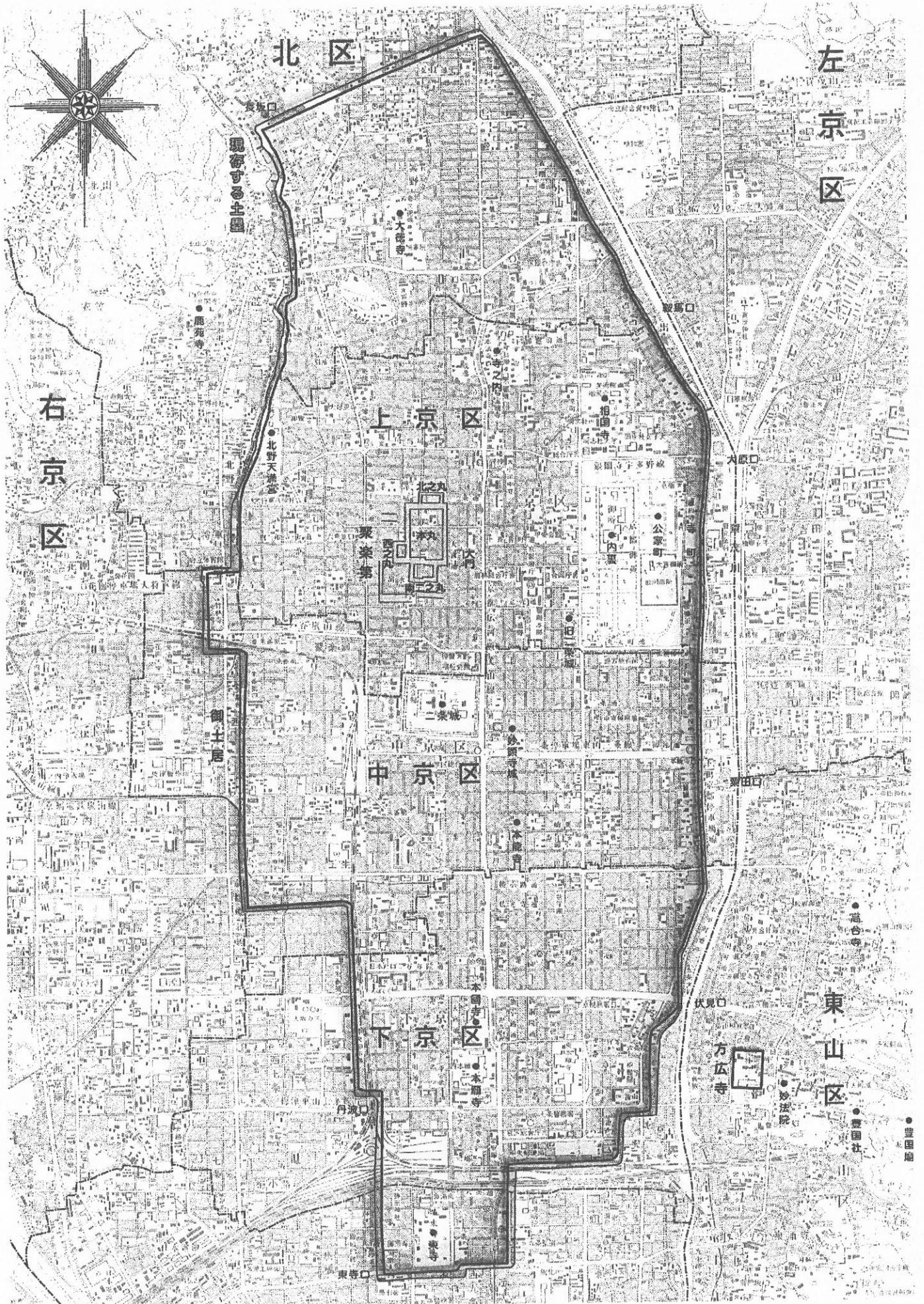


図2 関連遺跡位置図（京都）

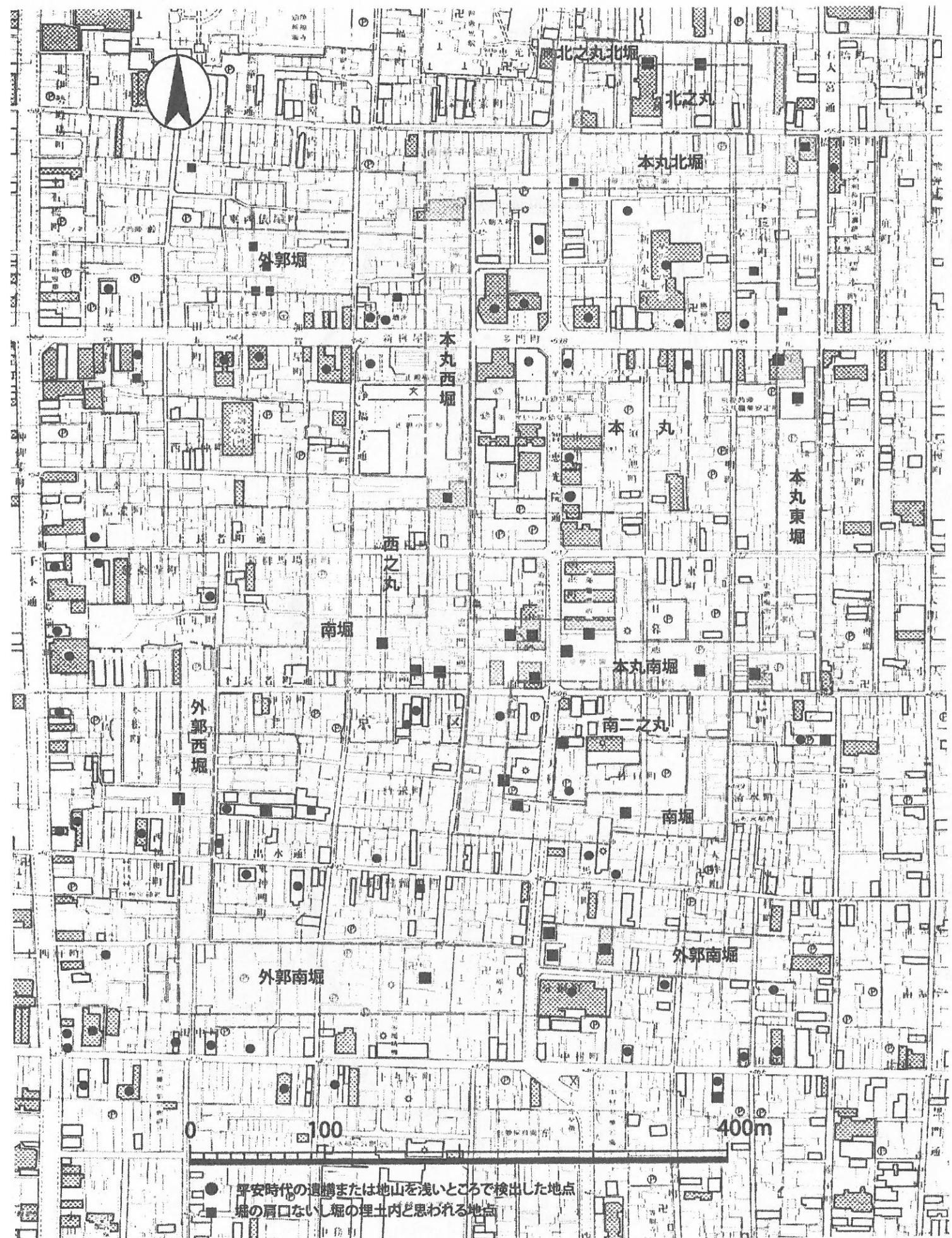


図3 聚楽第中枢部復元案（馬瀬智光氏作成）

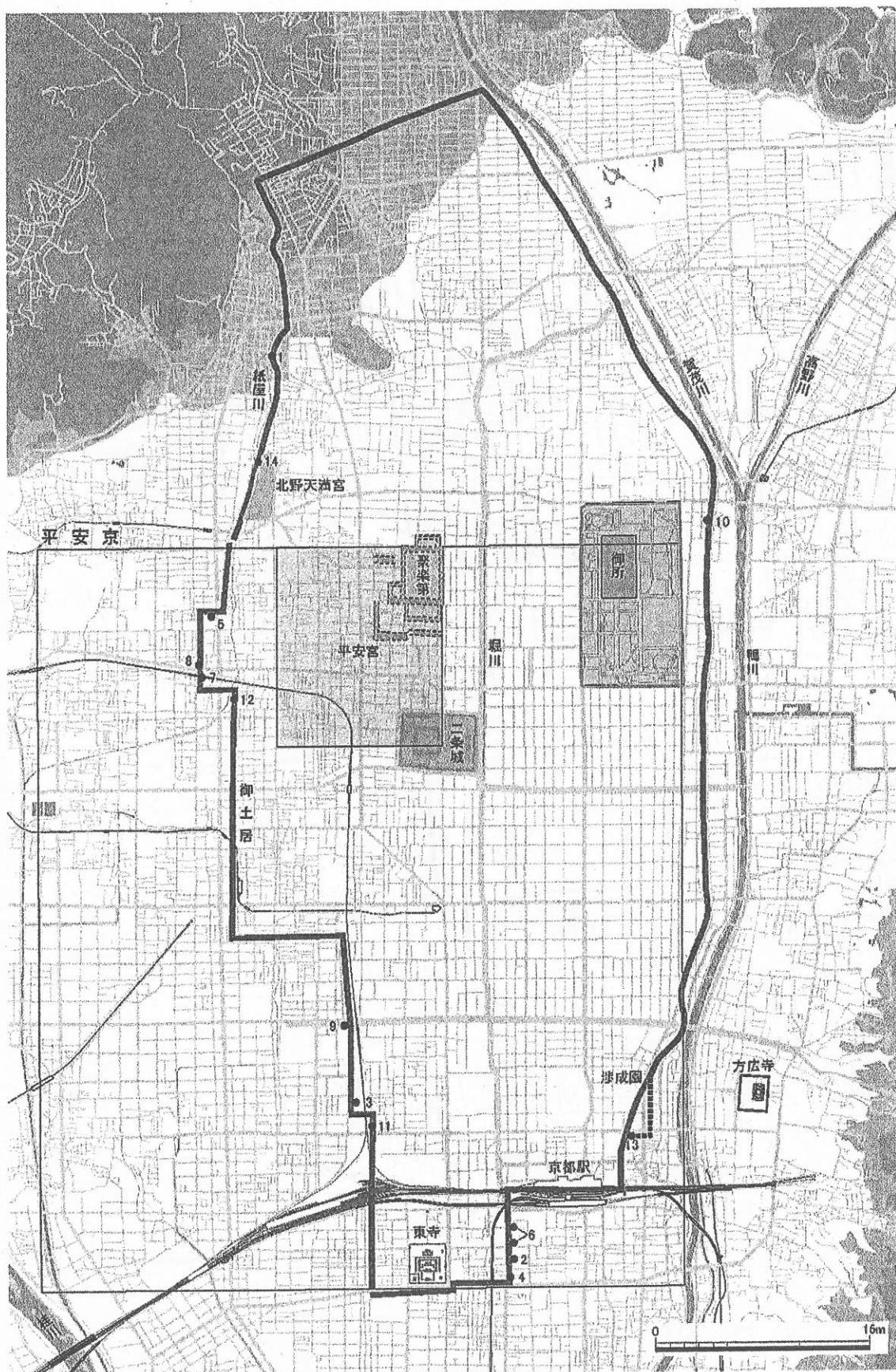


図4 御土居調査位置図（南孝雄氏作成）

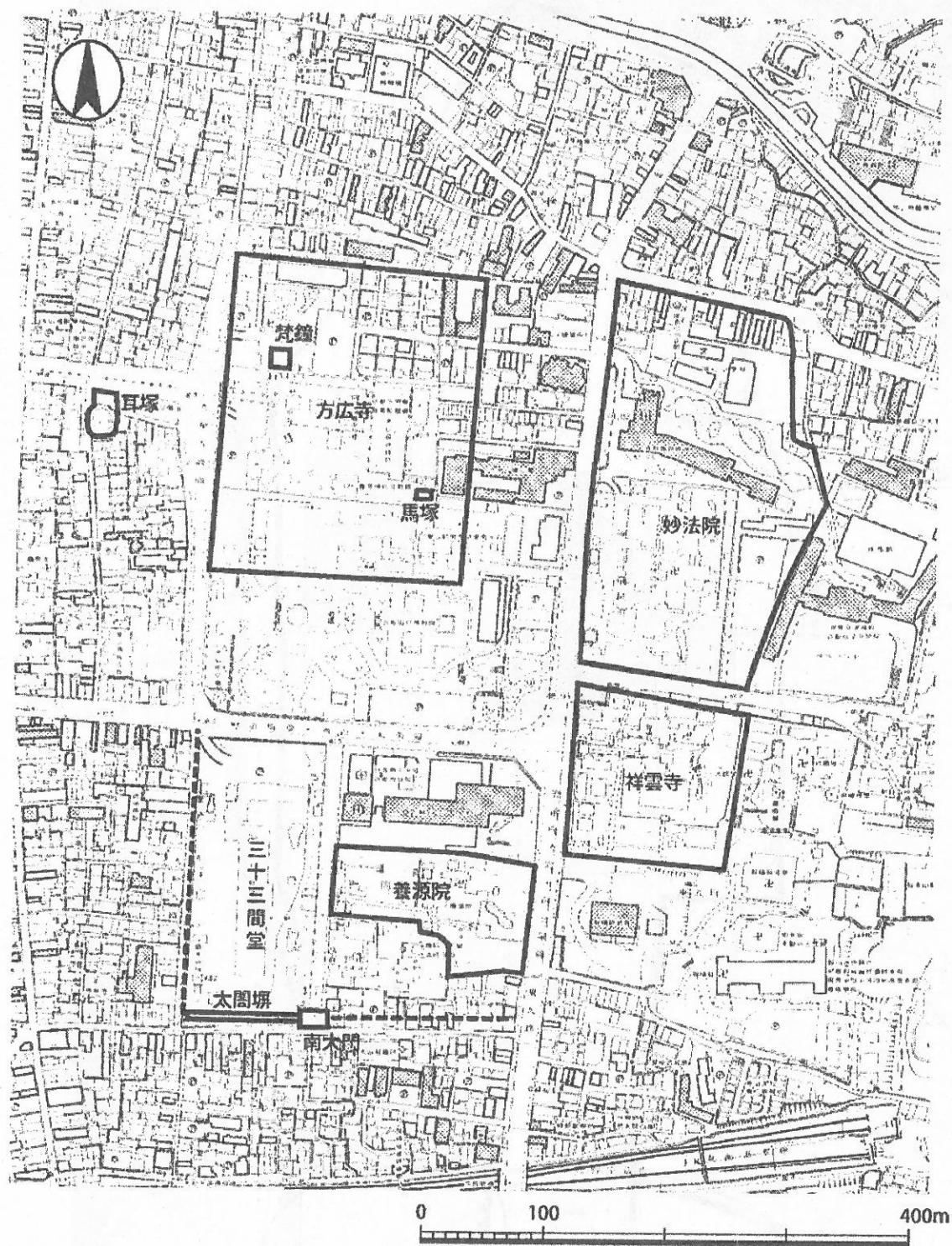
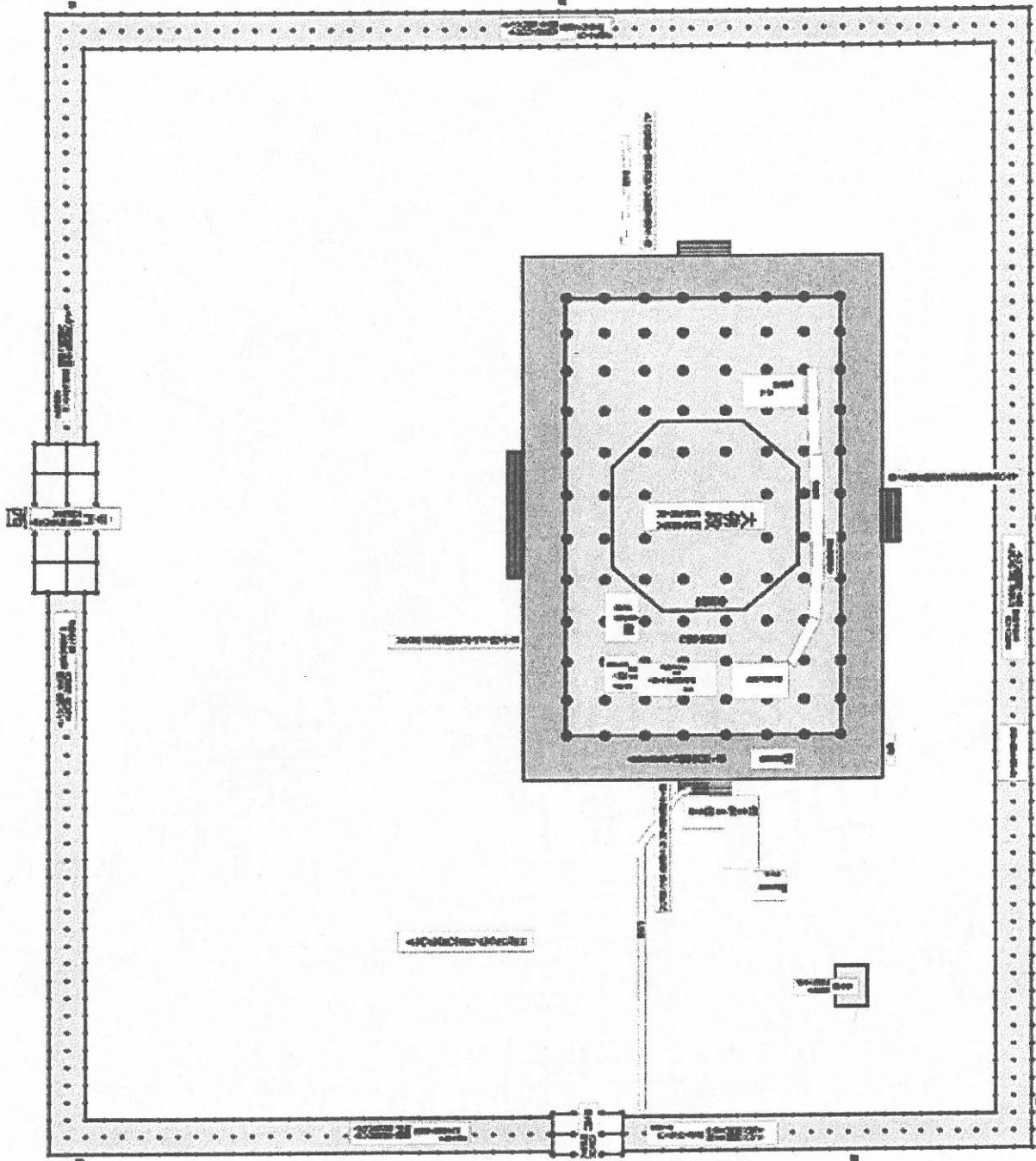


図5 方広寺と周辺位置図

水都府立総合資料館 中井文庫 517 東大寺大仏殿指図 万治年間(1658~1661) 貼絵図  
四分計 91.5×37.9 #6990.93 (中井文庫蔵)[3] 14 大仏殿指図  
「万治年中二改 大佛殿指図 中井主水正刻」の貼紙あり 布底 四分(1.2cm)目盛の万葉をへらなどで押し書き

## 書き起こし図



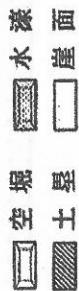
:貼紙の範囲を示す

図6 方広寺大仏殿復元図

第3・4期伏見城（豊臣期～徳川期木幡山城）城下町

推定復元図

（山田邦和作成）



（人物名・施設名は、豊臣期～徳川期伏見城時代の大名・武家などで、  
実在を確認することができた者に限った）

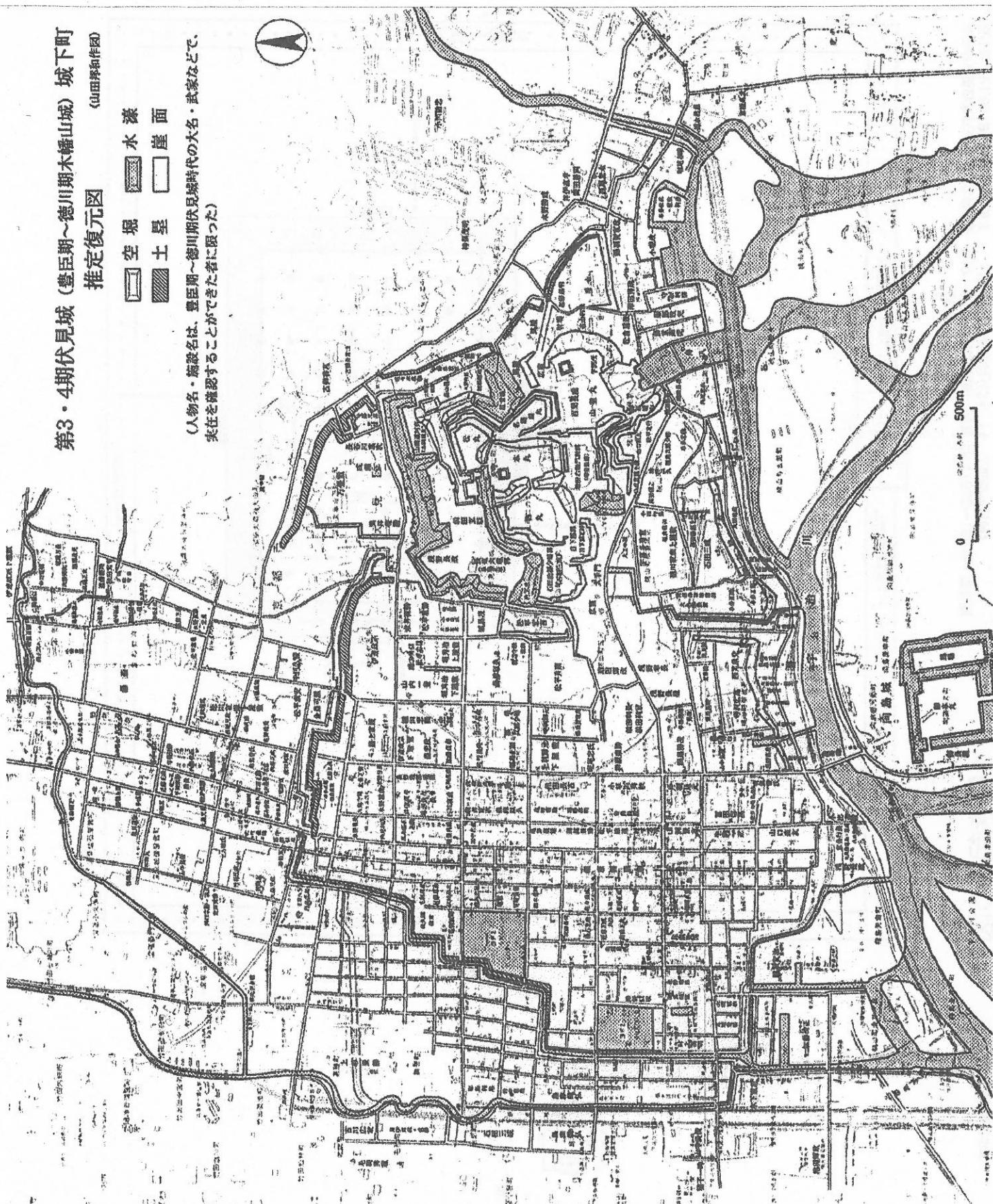


図7 伏見城復元図（山田邦和氏作成）

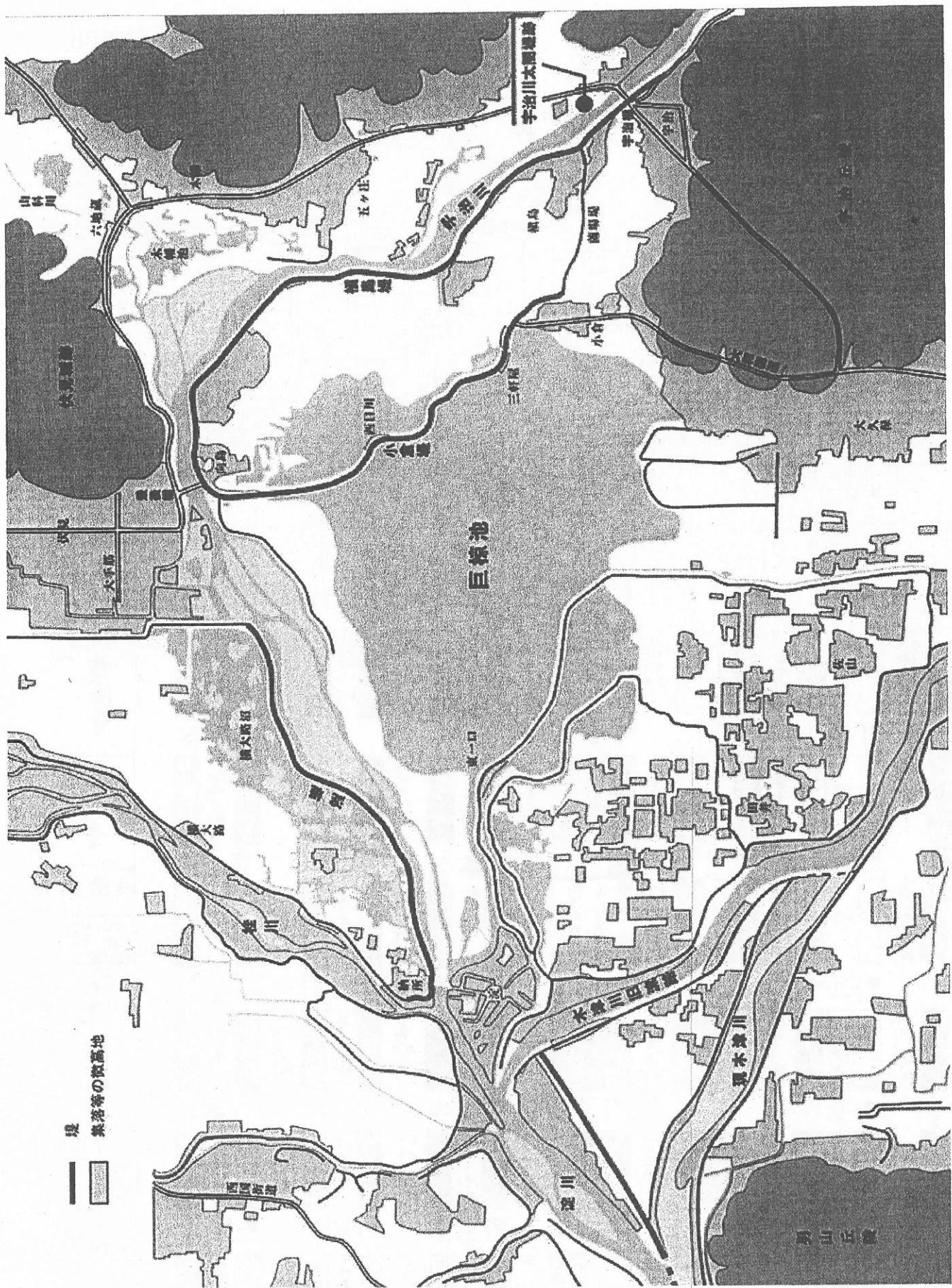


図8 太閤堤復元図（宇治市作成）

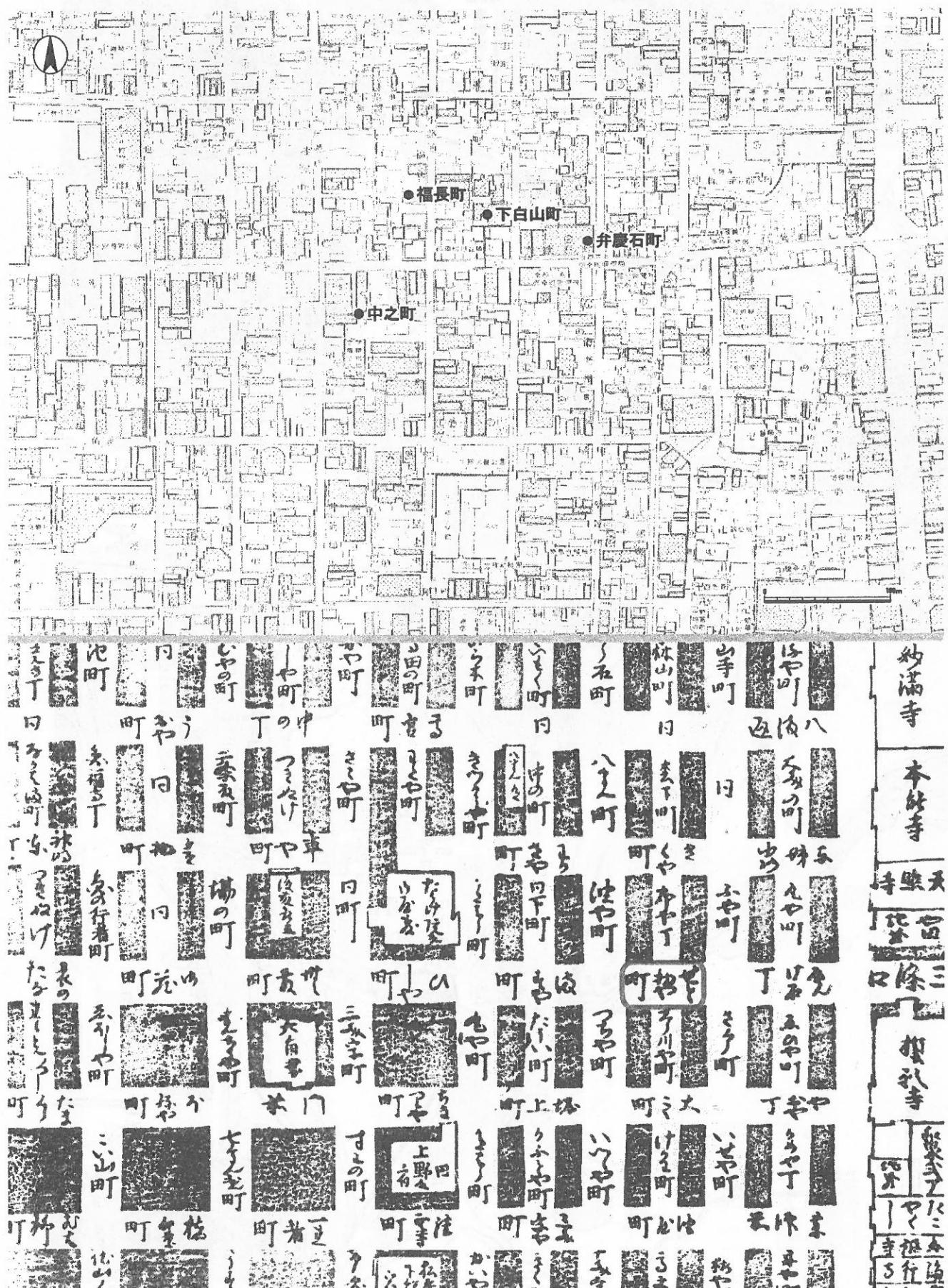


図9 三条通沿いの茶陶出土地点位置図

## 2014年度 史跡宇治川太閣堤跡 発掘調査成果

宇治市歴史まちづくり推進課 上阪 航

### 1. はじめに

#### 宇治川太閣堤

<規 模> 全長 400m 以上

(京阪宇治駅から菟道稚郎子墓の西側を通り現在の堤防の下で)

<構 造> 場所により構造が異なる護岸施設(石積み護岸・杭止め護岸)

+

水の流れを制御する水制(石出し・杭出し)

<使用石材> 宇治川上流が産地と考えられる粘板岩

### 2. 2014年度発掘調査成果

#### キーワード

①粘板岩・・・

宇治川太閣堤の護岸施設に使用される石材→みつかったらそこも護岸施設？

②現在の茶園景観・・・

宇治川右岸に広がる茶園・茶畠、その歴史はどのくらい遡ることが出来るのか？

#### 調査の目的

- ・史跡地南部での I. 護岸施設の確認 をするため。
- II. 土地利用の来歴 を明らかにするため。

#### 調査成果

- ・史跡地南部での護岸施設を確認(河岸段丘崖の裾に粘板岩)
- ・茶畠が古くからこの地で行われていた(規格的に並ぶ溝・明治時代か)

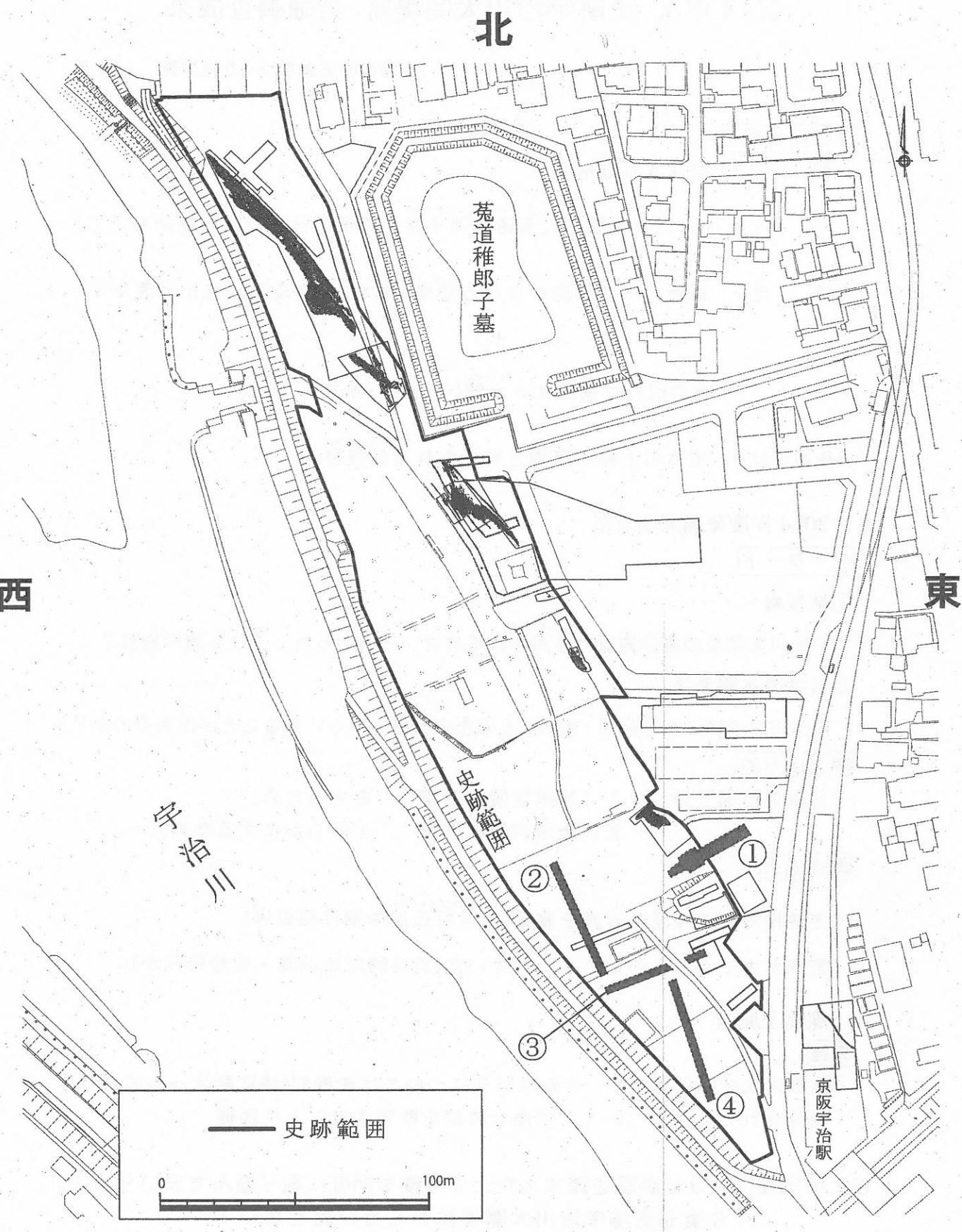
### 3. 課題と展望

#### 課題

- ・護岸施設を発見したが、その広がりについては未確認(特に南北への広がり)
- ・発見された茶畠について、明確な時期を断定することは困難

以上の調査成果及び課題を踏まえた上で今後も調査に取り組んでまいります。

今後も史跡宇治川太閣堤跡から目が離せない！



## 宇治川太閤堤跡歴史公園の整備

太閤堤は、伏見を中心とした新たな交通網をつくりだしただけでなく、貴族の別業が営まれた平安貴族のまち宇治から、現在のお茶のまち宇治につながる、おおきなターニングポイントになりました。

宇治市は、史跡宇治川太閤堤跡を、太閤堤だけでなく、宇治茶と宇治の歴史・文化について総合的に情報発信する施設として、整備をします。

### ・史跡ゾーンの整備

太閤堤を再現し、築造技術やその壮大さ、歴史的意義を実感できる整備をします。

#### 安土桃山期の遺構再現展示

築堤され機能している段階の遺構再現展示。基本的には発掘された状態を型取り等により整備し、当時の迫力ある治水遺構を再現展示します。



Aゾーンの整備イメージ

#### 現代の茶畠

太閤堤の築堤により形成された砂州に営まれた茶園が、現在に続く現状を大切にし、歴史の重層性を示します。

#### 地域・観光交流センター

#### 江戸時代の景観の再現展示

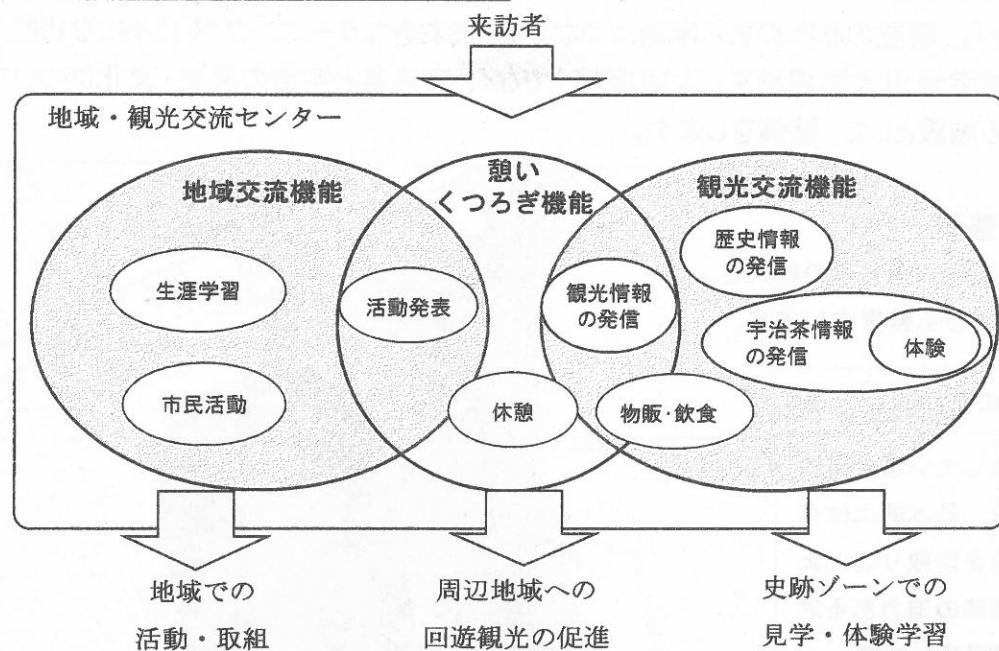
江戸時代に、太閤堤の護岸が砂州に埋まり、茶園が営まれるようになる当時の景観を再現します。

※この図は土地利用を示したものであり、土地所有者等との協議が完了したうちはありません。  
※上記は整備イメージであり、詳細なデザイン等は今後検討します。

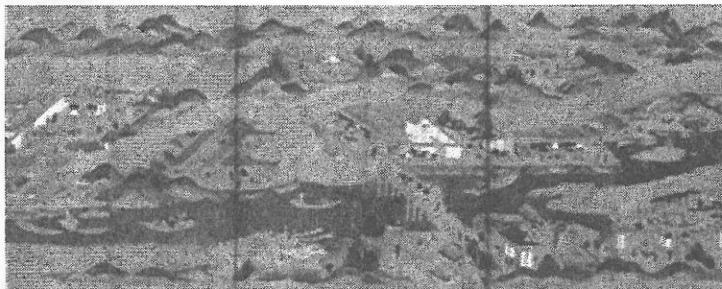
## 交流ゾーン「地域・観光交流センター」の整備

宇治茶と宇治の歴史・文化について総合的に情報発信し、宇治の新たな魅力・楽しみ方を提案します。

### 地域・観光交流センターの機能イメージ



### 展示のイメージ 例えば・・・



#### 宇治茶を伝える

##### 宇治茶事始

宇治茶伝来 非茶から本茶へ

##### 宇治茶人物史

明惠、千利休、古田織部、隱元、永谷宗円など  
宇治茶に関係した人たち

##### 宇治茶技術史

本ず栽培、碾茶製法の発展、玉露の発明など、  
宇治茶の発達史

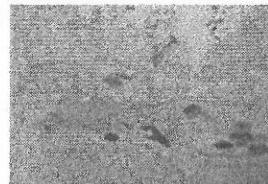
##### 宇治茶文化史

一服一銭、侘び茶、茶かぶき等 お茶にかかわる文化  
製茶・合組・抹茶加工などの体験

##### 宇治茶体験



織部茶碗



一服一銭図

#### 宇治のまちの歴史を伝える

##### 菟道稚郎子物語

応神天皇皇子、宇治命名の皇子宇治上神社祭神

##### 宇治橋物語

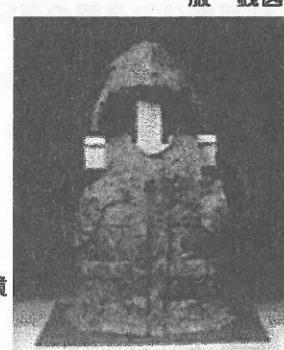
最古の橋、合戦など歴史の舞台、橋姫など妖怪も

##### 貴族・武将物語

藤原道長、頼通など宇治に関係する平安貴族  
源義經、楠正成、織田信長など宇治合戦の武将

##### 宇治のまち物語

平安貴族が設計し庶民が造り上げたお茶の町並



出土の甲冑